

全自動タイプ

給湯暖房用熱源機 取扱説明書

型 式 名	品 名	B L 品 番
GH-S246ZWH (-N)	GH-S246ZWH	XT-4203KRS-AW3C

もくじ	ページ
この製品の特長	1
安全に正しくお使いいただくために	2
この取扱説明書の表示について	2
機器本体の表示について	2
必ずお守りください	2
各部の名称とはたらき	8
ご利用前の準備	9
機器の準備	9
リモコンを「入」にする	9
冬期の凍結予防をするには	9
点検のポイント・お手入れのしかた	13
故障かな?と思ったら	15
アフターサービスについて	18
仕 様 一 覧	19

このたびは給湯暖房用熱源機をお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、十分に理解したうえで正しくご使用ください。この給湯暖房用熱源機には保証書が附いています。内容をよくご確認ください。この取扱説明書は、いつでもご覧になれる身近なところへ大切に保管してください。取扱説明書を紛失された場合は、お買い上げの販売店または、最寄りのガス会社へご連絡ください。その際、機器本体の銘板をご覧のうえ、品名・製造年月をお知らせください。



写真：GH-S246ZWH

この商品はリモコンが選べるリモコンのため、「使い方」については別売の選べるリモコン（浴室リモコンへ付属）の取扱説明書をご覧ください。ご使用になる前に必ずリモコンの取扱説明書とあわせてお読みください。

仕様一覧

〔仕様表〕

項目	目 名	内 容
型 式	GH-S246ZWH GH-S246ZWH (-N)	
外 形 寸 法 (mm)		幅470×奥行280×高さ600
質 量 (kg)	39	
種 類	給 湯 方 式 暖 房 方 式 給 排 気 方 式	先止め式 温水循環方式 屋外強制排気方式
設 置 方 式		屋外設置形
点 火 方 式	暖 房	AC100V連続放電式（ダイレクト着火）
水 使 用 水 圧		80～500kPa (0.8～5.0kgf/cm ²) 10kPa (0.1kgf/cm ²)
給 湯 量		3.5ℓ/分 0ℓ/分以上（締切り使用可） 4.5ℓ/分
電 力 消 費 電 力	定 格 凍結予防動作時	330/350W 380/420W
ガ ス 接 続	給 水 ・ 給 湯 暖 低 温 往 き 房 高 温 往 き ふ ー バ ー フ ロ ー	20A(R3/4オネジ) 20A(R3/4オネジ) CHジョイント(3P) QF16ジョイント QF16ジョイント QF16ジョイント 15A(R1/2オネジ)
電 気 装 置		本体電源 AC100V(50/60HZ) 浴室リモコン2心、台所リモコン2心 ファン回転検出装置（回転検出方式） 立消し安全装置（フレームロック方式） 煤火安全装置（バイメタル式） 過圧防止安全装置（スプリング式） 空だき安全装置（バイメタル式） 空だき防止装置（氷量センサー・氷流スイッチ） 過熱防止装置（過速ヒューズ） 漏電安全装置（漏電リレー） 熱線安全装置（サーミアフソバ） 凍結予防装置（電気ヒーター・ポンプ運転） 凍結安全装置（ガラス管ヒューズ） 凍結防止装置（バイメタル）

〔能力表〕

使用ガス 種類		1時間あたりのガス消費量kW(kcal/h)			出湯能力最大 ℓ/分		能力kW(kcal/h)		ガス 接続
		給湯・暖房 同時使用	給湯(最大)	暖房	水温+ 25℃上昇	水温+ 40℃上昇	追いだし	暖房	
都市ガス	L1	13A	52.3(45,000)	46.5(40,000)	17.2(14,800)	24.0	15.0	8.72(7,500)	14.0(12,000)
		12A	48.8(42,000)	43.4(37,300)	16.0(13,800)	22.4	14.0	8.72(7,500)	13.0(11,200)
		6A							
		5C							
		7C							
		6B							
		6C							
		5A							
		L2	5B						
			5AN						
			4A						
		L3	4B						
LPガス		4C	52.5(3.75kg/h)	46.6(3.33kg/h)	17.2(1.23kg/h)	24.0	15.0	8.72(7,500)	14.0(12,000)

- ◎ ガス、JISに規定する標準ガス、標準圧力のとき。
◎ 出湯能力は、水圧200kPa(2kgf/cm²)のときで、温度を高めに設定し、水と混合させることにより可能となる最大流量の計算値をいいます。
◎ 本仕様は改良のためお知らせせずに変更することがあります。

販売店名

この製品の特長

快適な「お湯のある暮らし」のための便利な機能を豊富に揃えました。どうぞお役立てください。

便利です!

- お風呂もシャワー・給湯も暖房も、これ1台でOK。
- スイッチオン!の簡単操作でお風呂が沸かせます。

- 予約タイマー付きだから、忙しい方も好きなときにバスタイム。



- 浴室から台所や他の部屋にいる人を呼び出すことができます。

浴室リモコンの呼び出しスイッチを押す

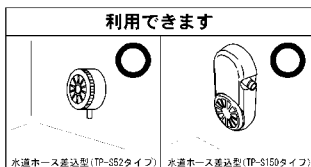


※リモコンが高機能タイプは、インターホン機能が付いています。

環境にもやさしい!

- 残り湯はポンプ運転で洗濯機へ。水の節約(省資源)になります。

(※浴槽の循環口の種類によって利用できない場合があります。)



- リモコンは待機時の消費電力を低減するため、未使用時に画面表示を消す、省電力機能付きです。

- 熱効率率が約91%と高いので、ガスをより効果的に使え、環境面でもCO₂削減に貢献します。

快適です!

- お風呂のお湯の温度を自動的に保温します。また、水位が下がったら、たし湯します。いつも快適なお風呂です。



- この機器は、取り付けリモコンのタイプを標準タイプと高機能タイプから選ぶことができます。

- リモコンの操作方法については、リモコンに付属の取扱説明書をご覧ください。



- この機器は、下記のユニット等と接続して使用することができます。取り付けられているお宅では、各ユニットに付属の取扱説明書をよくお読みください。

洗濯注湯ユニット 洗濯&トイレ注水ユニット
即湯ユニット ソーラーユニット

- 追いだし配管を自動的にきれいにします。お風呂のお湯を排水したときに、自動的にふろ配管内の残り湯を流し出す機能があります。以下の条件がそろったときに浴槽のお湯(水)を排水するとふろ配管の残り湯を、きれいなお湯(リモコンの運転が「切」の場合は水)約6リットルで流して浴槽の循環口から排出します。

- 条件
1. ふろ自動運転終了後、浴槽の残り湯が循環口より上にあった場合
 2. 排水中に給湯等を使用していない場合
- ※ふろ配管内の残り湯を流した際、ポンプの回る音がしますが故障ではありません。

安全に正しくお使いいただくために

■この取扱説明書の表示について■

この取扱説明書では、機器を正しくお使いいただき万一の事故を未然に防ぐため、以下のような表示で注意を呼びかけています。

⚠ 危険

この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者等が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険性が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

⚠ 警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者等が死亡または重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者等が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

■絵表示については次のような意味があります。



お願い

ご使用になるときに、よく理解していただきたい内容を示しています。

(→P. XX 参照)

参照ページを示しています。

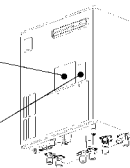
■機器本体の表示について■ (図は、GH-S246ZWHを示します。)

使用上の注意

- 使用上の注意について表示しています。

銘板

- 品名・型式名・使用ガスの種類・製造年月・製造事業者等を表示しています。



必ずお守りください(安全上の注意)

安全に正しくお使いいただくために、この内容は必ずお読みください。

⚠ 危険

屋内設置の禁止

- この機器は屋外設置形ですので絶対に屋内に設置しない。燃焼ガスが室内に充満したり正常な給排気ができないため異常燃焼し、酸欠や一酸化炭素中毒などの原因になります。

ガス漏れ時の処置

- ガス漏れに気づいたときは、機器の使用を中止し、ガス栓を閉じてからお買い上げの販売店、または最寄りのガス業者に連絡する。
 - ①給湯栓を全て閉じる。
 - ②ガス栓を閉じる。
- すべての処置が終るまでの間絶対に火をつけたり電気器具(換気扇その他)のスイッチの入・切や電源プラグの抜き差しおよび周辺の電話を使用しない。炎や火花で引火し火災のおそれがあります。



必ずお守りください

警告

機器設置（および付帯工事）

- この機器は屋外設置形ですので、増改築などによって屋内状態にしない。不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。



禁止



- 機器の設置・移動および付帯工事は、お買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へ依頼し、安全な位置に正しく設置する。設置工事に不備があると事故の原因になります。

囲い禁止

- 設置後、機器や排気口を波板やビニールなどで囲わない。不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。

給排気口の周囲

- 給排気口の前方にものを置かない。不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。

ガス接続について

- この機器のガス管の接続はねじ接続です。接続は配管技能者が行いますので、お買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へご相談ください。

機器本体に無理な力を加えない

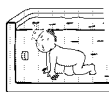
- 機器本体やガスの接続部などに乗らない。けがや機器の変形による故障のおそれがあります。

地震・火災などの緊急時の場合

- 迅速に使用を中止し、ガス栓を閉じる。

お子様には十分な注意を

- 浴槽の循環口の付近で湯（水）に潜ったりしない。特に小さなお子様のいるご家庭では注意してください。思わぬ事故につながる可能性があります。



- 浴槽にお湯張りしているときや沸かしているときに、お子様を浴室で遊ばせない。思わぬ事故につながる可能性があります。



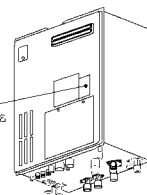
使用ガス、使用電源の確認

- 機器の銘板に表示してあるガス種（ガスグループ）および電源（電圧・周波数）で機器を使用してください。ガス種および電源が一致しないと不完全燃焼による一酸化炭素中毒になったり、爆発着火でやけどをしたり、機器が故障する場合があります。

- 転居時の注意は（→P. 18 参照）



●この機器はAC100V 50/60Hz専用です。
（※ 燃焼方式によりガス種が異なります）
この部分を確認してください。
（※ 燃焼方式によりガス種が異なります）
品名
型式
製造年月を示しています。
（例）03.04 → 2003年4月の製造



火災予防のために必ず守ること

機器周辺のものは常に図の離隔距離を確保する。



- 機器および排気口の周辺には紙や木材など燃えやすいものを置かない。火災の原因となります。
- 機器の周辺ではガソリン、ベンジン、スプレーなど引火性危険物を使用しない。引火して火災を起こすおそれがあります。
- 機器の周辺や上にスプレー缶、カセットコンロ用ボンベを置かない。熱でスプレー缶の圧力が上がり爆発のおそれがあります。
- 排気口は洗濯物などでおおわない。不完全燃焼の原因となります。



禁止



分解禁止

- お客様ご自身では絶対に分解したり修理・改造は行わない。異常動作して事故の原因となります。

安全に正しくお使いいただくために、
この内容は必ずお読みください。

異常時の処置について

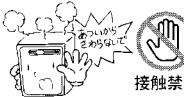
- ① 給湯栓を開けても点火しない場合、また、使用中で火が消える場合は、ただちに使用を中止してガス栓を閉じる。
- ② 本書の「故障かな?と思ったら」（15～17ページ）に従って処置をする。
- ③ 上記の処置をしても直らない場合、または、使用中に異常な燃焼や臭気・異常音・異常な温度を感じた場合は、使用を中止してお買い上げの販売店または最寄りのガス会社へ連絡する。



給湯栓・ガス栓を閉じる

機器本体でのやけどに注意

- 機器の使用中止または使用後はしばらくは、排気口とその周辺部に絶対に手を触れない。高温になっていますのでやけどのおそれがあります。



接触禁止

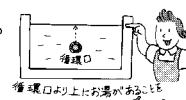
注意

用途についての注意

- 一般家庭での台所・シャワー・洗面などへの給湯、おふろ沸かし、暖房以外の用途には使用しない。思わぬ事故につながる可能性があります。
- 車庫・船舶への搭載はしない。振動により機器が転倒し、火災や機器故障の原因になります。
- ユニットを取り付けた際は、ユニットの用途以外には使用しない。（ユニットに付属の取扱説明書をよくお読みください）

空だき防止

- 追いただきスイッチを押すときは、必ず浴槽の循環口より上に湯（水）が入っていることを確かめる。水位が循環口より低いと、空だきによる機器の故障や浴槽の損傷などの原因となることがあります。



長期間使用しない場合

- 長期間使用しないときは、ガスの元栓を閉めてください。

本体周辺の防火措置

- 本体の周辺は整然としてください。

給湯・シャワー使用時、入浴時の注意

- ① シャワーなどお湯を使う場合は最初にお湯が出ることを確認する。手のひらで温度を確かめて湯温が安定してからお使いください。
- ② 給湯使用時は出湯管（蛇口）が熱くなるので、やけどに注意する。
- ③ お湯を止めた後に再使用するとき、お湯の量を急に少なくしたとき、給水圧が下がったとき、あるいは、万一機器が故障した場合には、一瞬熱いお湯が出ることもある。手のひらで温度を確かめて湯温が安定してからお使いください。
- ④ シャワー・給湯使用中は、使用者以外はお湯の温度を変更しない。突然、熱湯や冷水が出て思わぬ事故につながる可能性があります。
- ⑤ 浴槽に入るときは、手で湯の温度を確認して入浴する。また、浴槽内のお湯は上下に温度差があることがありますのでご注意ください。
- ⑥ おふろ沸かし（沸かし直し）や追いただき時には、循環口アダプター付近は熱くなることがあるので注意する。



手で温度を確かめる



電気事故防止

- 電源コードを加工したり無理な力を加えない。感電・ショートや発火による火災のおそれがあります。
- 傷んだプラグやコードは使わない。差込みがゆるいと感電や火災の原因になります。
- 電源プラグのほこりは、拭き取る。発火の原因になります。
- 濡れた手で電源プラグをさわらない。感電のおそれがあります。



禁止

- コンセントから電源プラグを抜くときは、プラグを持って抜く。コードを引っ張ると内部で断線して発熱や発火の原因になります。



アースを接続せよ

- この機器は接地工事（アース）が必要なので、アースがされているか確認する。

ソーラー機器について

- ソーラー機器とは絶対に接続しない。（ソーラーユニットを使用する場合は除く）夏期にソーラーの水温が高くなるとお湯の温度制御ができなくなり、高温のお湯がそのまま出ます。やけどをしたり機器の故障原因になります。



禁止

必ずお守りください

お願い

市販の補助用具について

- 事故防止のため、この機器の純正部品以外は使用しないでください。
- 水圧の低い地域では泡沫水栓を使用しないでください。
- 市販品の湯冷め防止器などは使用しないでください。
- やけど対策上、サーモスタット付混合水栓の使用をお勧めします。
- 混合水栓にはさまざまな種類があります。使用方法は、混合水栓の取扱説明書をご覧ください。

リモコンの扱いについて

- 台所リモコンには水をかけないでください。
- 浴室リモコンは防水タイプですが故意に水をかけないでください。スピーカー部に水がかかると音声小さくなる場合があります。
- リモコンはお子様がいまざらないよう注意してください。



禁止

断水のと

- 断水のとときは、給湯栓を閉じ、リモコンの運転スイッチを切ってください。

電源プラグを抜かない

- お手入れの際、長期間使用しない場合、および凍結防止のため水抜きを行うとき以外は電源プラグを抜かないでください。

雷が発生しているときの注意

- 雷が鳴り始めたらすみやかに運転を停止し、感電に注意して電源プラグをコンセントから抜いてください。雷による一時的な過電流で電子部品を損傷することがあります。
- 30分以上電源プラグをコンセントから抜いた場合は、リモコンの各設定（給湯温度・ふろ温度・ふろ水位・現在時刻・予約時刻等）を行い、表示を確認したのちご使用ください。



電源プラグを抜く

雷が鳴ったあと機器が作動しないとき

- 落雷の際に、機器内の漏電リレーが作動したことが考えられます。この場合は電源プラグを一度コンセントから抜き、再度差し込んでください。それでも使用できないときは買い上げの販売店または、最寄りのガス会社へご連絡ください。

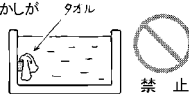
5

飲用にお使いのときは

- 機器内に長時間たまった水（たとえば朝一番の使い始めのぬるい湯が出るまで）は、飲まないで雑用水としてお使いください。

入浴時の注意

- 循環口を外して、お子様がオモチャ等を入れて遊ばないように注意してください。機器の故障の原因になります。
- 浴槽の循環口をタオルなどでふさがないでください。循環不良によりおふろ沸かしができません。



凍結についての注意

- 凍結のおそれがあるときは、この取扱説明書のP.10「冬期の凍結予防をするには」に従って処置してください。おこたると機器内の水が凍って機器が破損することがあります。
- 凍結したときは、この取扱説明書のP.10「冬期の凍結予防をするには」に従って処置してください。
- 機器や配管が損傷した場合、高額な修理費がかかります（有料）。
- 凍結がとけたあと再使用するときは、すべての給湯栓から水が出ることを確認し、機器および配管から水漏れがないことを確認後、P.11「再使用するとき」の項以下の操作を行ってください。

停電時または電源プラグを抜いたとき

- この機器は、停電時や電源プラグを抜いたときは使用できません。
- 停電時は給湯栓を閉じてください。



給湯栓を閉じる

- 再通電したときは、リモコンの設定（給湯温度・ふろ温度・ふろ水位・現在時刻・予約時刻等）を行い、表示を確認したあとご使用ください。
- 30分以上の停電のときは、リモコンの再設定が必要です。
- 自動でおふろを沸かし、停電になると、自動運転が停止し、循環口からの湯が止まります。通電後、再度、運転スイッチを押し、ふろ自動スイッチを押してください。

この機器は一般家庭用です

- 業務用のような使いかたをされると機器の寿命を著しく短めます。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。

日常の点検・お手入れ

- 安全にお使いいただくために、点検・お手入れは月1回程度必ず行ってください（詳しくはP.13をご覧ください）。
- 故障または破損したと思われるときは使用しないでください。このときご家庭で修理せず、お買い上げの販売店または、最寄りのガス会社へご連絡ください。
- 循環口フィルターはこまめに掃除してください。浴槽内の循環口フィルターがつまると、浴槽の湯温が不均一になったり、沸き上がる前に消火することがあります。
- 浴槽や洗面台が、水中の微量の銅イオンと脂肪分（湯アカ）により青く着色することがあります。日々、浴槽や洗面台のお手入れをするとともに、万一着色した場合はクレンザーやアンモニア水（10%程度）等で拭き取ってください。
- オーバーフロー配管の先からスムーズに排出されるか点検してください。ゴミ等によって閉鎖されている場合は掃除を行ってください。また、熱効率が高いため、排水量が多くなっています。

長期間使用しないときは

- この取扱説明書P.10の「機器の水を抜く方法」に従って、水抜きを行ってください。水が長いあいだ流れないと、一瞬湯つたお湯が出たり、冬場に凍結する場合があります。



お願い 設置する場所や状況について

設置場所について

- 設置場所をお決めになるときは近隣の家が運転音（燃焼音、燃焼用送風機、ポンプ回転音）で迷惑にならない場所に設置してください（工事担当者にご相談ください）。
- 足場などを組んだり、ハンゴ・脚立を使わないでください。メンテナンスができない高所などに設置しないでください。メンテナンスをお断りすることがあります。

排気ガス

- 排気ガスが直接建物の外壁やアルミサッシなど当たらないよう施工してください。外壁が変色したりアルミサッシが腐食したりするおそれがあります。
- 排気口の周囲には、排気口からの排気ガスによって加熱されて困るもの（危険物・植物・ペットなど）を置かないでください。（寒い日は排気ガスが白い湯気のように見えることがあります）

ほこり

- 砂や油煙、ペットの毛など、ほこりのたまりやすい場所には設置しないでください。ほこりが給気口をふさいで、燃焼用の送風機の性能を低下させ、不完全燃焼の原因となります。

入浴剤や洗剤についての注意

- 強酸・強アルカリの洗剤および、硫酸・酸を含んだ入浴剤は、機器の性能低下や熱交換器等が腐食する原因となりますので使用しないでください。入浴剤の含有成分等を確かめ機器への悪影響がないものをご使用ください。
- ふろ用洗浄剤または乳白色や白濁する入浴剤のなかには、沈殿物が熱交換器にたまって異音を生じたり、フィルターやお湯の通路にたまって動作不良を起こすものがあります。沈殿物を生じないものでも熱交換器内で沸騰を起こし異音が発生することがあります。このような入浴剤はご使用を避けてください。
- 薬草やゆず入り入浴剤の場合は、薬草などがフィルターや機器内部につまることがありますので、ご使用を避けてください。



ガス事故防止のために

- 使用時の点火、使用後の消火のほか、使用中も正常に燃焼していることをリモコンの燃焼表示で確認してください。

通水使用の禁止

- 運転スイッチを切った状態で、給湯栓を開けて水を出したり、シャワーを浴びないでください。機器の寿命を短くします。

給排気について

- 機器は給気・排気が十分できる場所に設置してください。給排気が不十分な場所に設置すると不完全燃焼の原因となります。

塩ビ管の使用について

- 給水・給湯配管に塩ビ管を使わないでください。機器の使用直後に熱交換器の後沸きにより塩ビ管が破裂し、熱湯がふき出したり、多量の水漏れの原因になります。（ただし、オーバーフロー配管は除きます）

地下水や温泉水、井戸水の注意

- この機器は水道用です。水質によっては、機器内の配管内部に異物が付着するなど耐久性を損なう場合や、機器が正しく作動しないことがあります。この場合、保証期間内でも有料修理となります。

塩害

- 海岸近くに設置するときは、潮風さらされる場所を避けてください。機器が腐食し、故障の原因となります。

お使いいただく前に

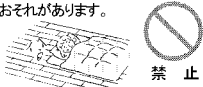
6

必ずお守りください

警告 床暖房についての注意

やけどに注意

- 長時間、皮膚の同じところに触れて使用しない。低温やけどの原因となります。
〈次のような方は特に注意〉
- ・お子様
- ・お年寄り
- ・深酒、疲労の激しい方
- ・皮膚の弱い方
- ・眠気を誘う薬（睡眠薬、かぜ薬など）を服用された方
- 乳幼児や身体の不自由な方には付き添いなしでは使用しない。低温やけどのおそれがあります。



禁止

火災予防

- 床暖房の上にスプレー缶・ライター等を置かない。爆発や火災のおそれがあります。



禁止

床についての注意

- 床暖房を設置している床面に、突起物（釘・画びょう・きり・ダニ防虫剤の注射針・はさみなど）を落としたり刺したりしないでください。水漏れの原因になります。



禁止

注意

床についての注意

床に水などがこぼれたらすみやかに拭きとる

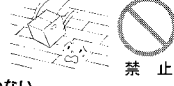
- 床面に水・薬品・しゅう油などをこぼしたままにしておくと、床暖房の放熱板が腐食することがありますので、すみやかに拭きとってください。



禁止

床へは衝撃を加えない

- 床が破損し、水漏れのおそれがあります。



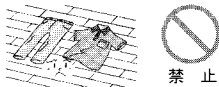
禁止

床仕上材の上に敷物を敷かない

- 木質フローリングをお使いの場合、カーペットなどの敷物を敷かないでください。性能が発揮できない場合や、床暖房の熱がこもって、フローリングが変形、変色することがあります。

用途についての注意

- 床暖房を他の目的に使用しない。
特殊な用途（例えば衣類の乾燥や動物の飼育、植物の栽培、食品の保存など）には使わないでください。



禁止

床下防腐処理について

- 床暖房および配管類に処理剤が付着すると腐食することがありますので注意してください。

家具などを直接床に置かない

- 床暖房の上に、調度品・家具などを置きますと家具等に熱がこもり、ひずみ等が発生するおそれがあります。

重いものはそのまま置かない

- ピアノなど重量物にはバットなどを敷いて一箇所に荷重がゆかないよう設置してください。床が破損し、水漏れのおそれがあります。



禁止

ホットカーペットとの併用はしない

- 床仕上材が変形、変色するおそれがあります。



禁止

カーペットの張替えについて

- 張替えする場合には床暖房専用のものを使用し、床暖房を破損しないように両面接着テープがグリップバーにて固定するようにしてください。釘あるいはばりうで固定するのは避けてください。また、交換を考えて、全面接着することは避けてください。

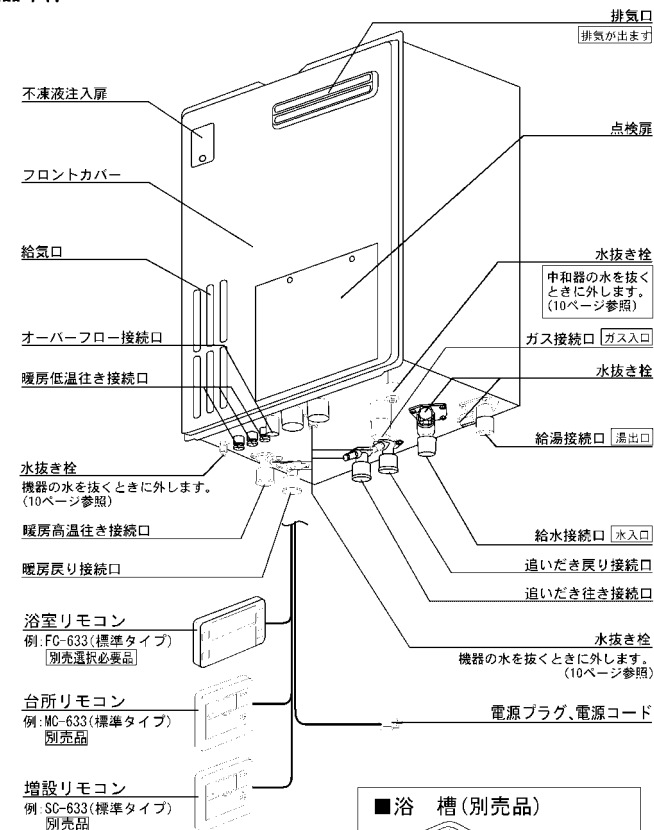


！

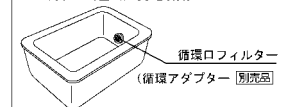
床暖房以外の放熱器についての注意は、放熱器の取扱説明書にあります。放熱器の取扱説明書をよくお読みください。

各部の名称とはたらき

機器本体（図はGH-S246ZWHを示します）



浴槽（別売品）



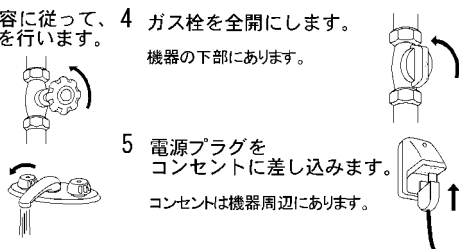
お使いいただく前に

ご利用前の準備

はじめてお使いになるときは、まず屋外にある機器の準備をします。以下のような手順で準備ができました、リモコンのスイッチを入れてみましょう。

■機器の準備

- この取扱説明書のP.13の内容に従って、機器や機器周辺の点検 確認を行います。
- 給水元栓を全開にします。
機器の下部にあります。
- 給湯栓を開け、水が出ることを確認したら閉じます。
- ガス栓を全開にします。
機器の下部にあります。
- 電源プラグをコンセントに差し込みます。
コンセントは機器周辺にあります。



■リモコンを「入」にする

- 浴室リモコンまたは台所リモコンの運転スイッチを押します。

以降は、別売の選べるリモコンに付属している取扱説明書に従って操作を行ってください。
工場出荷時の設定について（標準タイプ・高機能タイプ共通）・・・主な設定項目について説明します。
給湯温度：40℃、ふろ温度：40℃、保温時間：4時間、ふろ水位：水位バー5（約42cm）
現在時刻：AM11:00、予約時刻：PM6:00 です。
※半身浴ふろ水位：水位バー3（約30cm）、半身浴ふろ温度：38℃（高機能タイプのみ）などです。

冬期の凍結予防をするには

凍結を予防するための操作について説明します。

給湯・ふろ

■凍結予防装置による方法

通常の寒さのとき（外気温－15℃、有風5m/秒程度まで）

この機器には、気温が下がってくると自動的に機器内を保温する凍結予防ヒーターと、自動的に浴槽の水（湯）を循環して機器内や追いき配管の凍結を予防する凍結予防装置がついています。

そのため外気温－15℃程度までは、機器の電源プラグをコンセントに入れた状態にしておけば、機器内の凍結は予防できます。これらの装置は、運転スイッチの「入」／「切」に関係なく作動します。

寒波などで特に寒くなりそうなときは、給湯栓の水を流す方法または、機器の水を抜く方法で凍結予防をしてください。

- お願い**
- 自動凍結予防装置は電源プラグを抜いたり、電源ブレーカーを切ると作動しません。絶対に、電源プラグは抜かないでください。
 - 機器内の凍結は予防できますが、配管は凍結することがあります。配管は必ず保温材で被覆してください。
 - 凍結予防装置で凍結予防をしているときは、浴槽の残り湯を捨てないで、そのままにしておいてください。
※浴槽の水（湯）は循環口上部より5cm以上高い位置にあることを確認してください。
 - 次の朝、お使いになるときは、給湯栓を開けて水が出ることを確認してから、運転スイッチを「入」にしてください。



9

冬期の凍結予防をするには

凍結を予防するための操作について説明します。

■給湯栓の水を流す方法

この方法は機器本体だけでなく、給水・給湯配管やバルブ類および給湯栓の凍結予防に有効です。

- 運転スイッチを押してリモコンを「切」にします。
- 浴室の給湯栓を開け、1分間に400cc（牛乳びん2本ぐらい）の水を流し続けます。流量が不安定なことがありますので、念のため30分ぐらい後にもう一度流量を確認してください。



- ガス栓を閉じます。



●給湯栓の水を流す方法で凍結予防をしているときは、家の人に凍結予防のために水を流していることをお知らせください。水を止めると凍結します。

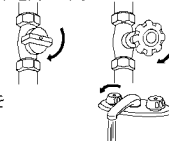
■機器の水を抜く方法

入居前や長期不在で家の電気ブレーカーを「切」にする場合や、電源プラグを抜く必要がある場合には、この方法で機器内の水を排水し凍結予防をします。排水後は、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。



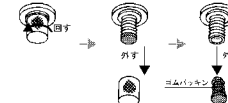
●使用後すぐに水抜きをしない。やけどのおそれがあります。
機器やお湯が高温になっていますので冷えてから行ってください。

- ガス栓・給水元栓を閉じます。



水抜き栓（6）の外しかた

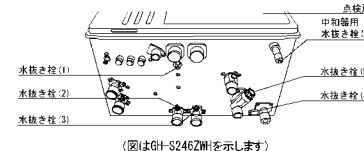
水抜き栓（6）は中のゴムパッキンを外して、水抜き栓にはめ込んでください。



- 全ての給湯栓を全開にします。

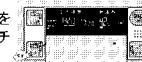
- 浴槽の水を排水します。

- 水抜き栓（1）（2）（3）（4）（5）（6）を外します。



（図はG+S246ZHを示します）

- 浴室リモコンの運転スイッチを「入」にし、追いきスイッチを5秒間押し続けます。



浴槽の水が排水されていないと浴室リモコンに「032」が点滅（台所リモコンに「03」とふろ燃焼ランプが点滅）します。再度、浴槽の水が排水されているか確認してください。

- 必ず電源プラグを抜きます。

以上の操作で機器内の水は排水されますので、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。



お願い

- 水抜きをするとき床などに水が流れては不都合な場所では、あらかじめ容器を用意して水を受けてください。
- 水抜きをしたあとは、浴槽へ水を流し込まないでください。
- 別売のユニットを取り付けている場合の水抜き方法については、ユニットに付属の取扱説明書をご覧ください。

10

はじめて使うときは
長お使いのために

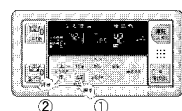
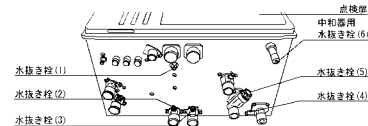
冬期の凍結予防をするには

給湯・ふろ

■再使用するとき

機器内の水を排水したあと、しばらくして再度使用するときには次の操作をしてください。

- 1 水抜き栓 (1) (2) (3) (4) (5) (6) を閉じます。
- 3 給水元栓を開け、水漏れがないことを確認し、ガス栓も開けます。
- 4 電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 5 リモコンのふろ温度・ふろ水位・保温時間・給湯温度・現在時刻・予約時刻等を設定し直します。



- 2 全ての給湯栓を閉じます。



- 再使用するとき、水抜き栓を元通りに確実に閉じてください。閉じかたが不十分だったり閉じ忘れたりすると、そこから水漏れします。
- 別売のユニットを取付けている場合、ユニットに付属の取扱説明書も合わせてご覧ください。

暖房

■凍結予防装置による方法

通常の寒さのとき (外気温 - 15℃、有風 5m/秒程度まで)

この機器には、気温が下がってくると自動的に暖房タンクの水 (湯) を循環して暖房運転 (燃焼) し、暖房回路内の水を暖め凍結を予防します。回路内が暖まると暖房運転を停止します。通常は機器および放熱器の電源プラグをコンセントに差し込まれた状態にし、ガス栓を開けておけば凍結予防できます。凍結予防装置は運転スイッチの「入」/「切」に関係なく作動します。

寒波などで特に寒くなりそうなときは、不凍液による方法または、機器の水を抜く方法で凍結予防をしてください。

- 方法は放熱器によって異なります。
- 電源プラグがコンセントから抜けていたり、電源ブレーカーが切れていると作動しませんのでご注意ください。
- この方法では、機器内の凍結は予防できても配管は凍結することがありますので、必ず保温材や電気ヒーターを巻くなどの措置をしてください。
- 従来の製品と比べ、熱効率が高いため排気口から白煙が出やすくなっています。これは水蒸気であり、機器の故障ではありません。

■不凍液による方法

- 寒冷地では不凍液を使用してください。不凍液は経年劣化します。毎シーズン初めにお買い上げの販売店、または最寄りのガス会社にチェックを依頼して、3年に1度交換してください。
- 暖房システムの凍結予防のために指定された不凍液を使用してください。指定以外の不凍液は機器に悪い影響を与える場合がありますのでご注意ください。
- 不凍液は、不凍液の取扱説明書に記載されている方法で正しく使用してください。

■機器の水を抜く方法

(不凍液が入っている場合、水抜き操作は行いません。)

入居前や長期不在で家の電気ブレーカーを「切」にする場合や、電源プラグを抜く必要がある場合には、この方法で機器内の水を排水し、凍結予防します。排水後は、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。

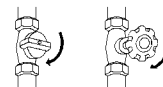


- 使用後すぐに水抜きをしない。やけどのおそれがあります。
- 機器やお湯が高温になっていますので冷えてから行ってください。

- 給湯・ふろの水抜き操作に引き続き暖房の水抜きを行う場合は、再度電源プラグを差し込みます。

暖房回路内の水を抜きます

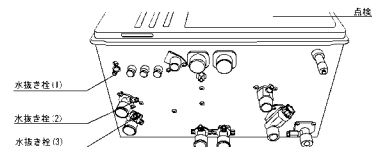
- 1 ガス栓・給水元栓を開きます。



- 3 浴室リモコンの運転スイッチを「入」にし、追いつきスイッチを5秒間押し続けます。



- 2 水抜き栓 (1) (2) (3) を外します。



浴槽の水が排水されていないと浴室リモコンに「032」が点滅 (台所リモコンに「03」とふろ燃焼ランプが点滅) します。浴槽の水が排水されているか確認してください。

- 4 水抜き栓から完全に水が出なくなったら、電源プラグを抜きます。



お願い

- 暖房循環回路の水抜きを行った場合は、再び使用するとき水張り作業が必要です。お買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へご連絡ください。
- 水抜きの操作をすると、機器本体だけでなく配管や放熱機内の水も出てきます。水が流れては不都合な場所では、あらかじめ容器を用意して水を受けてください。

凍結したとき

凍結したときは、給湯栓を開けても水がでできません。

解凍するまで待つて、次の操作により水が出ることを確認してから運転してください。

- 1 ガス栓・給水元栓を開きます。
配管が破裂していた場合の水漏れを防止する目的です。
- 3 ときどき、給水元栓と給湯栓を開けて、給湯栓から水が出ることを確認します。水が出てくれば使用できます。通水したら、機器および配管から水漏れがないことを確認してください。ガス栓を開けます。
- 2 リモコンの運転スイッチを「切」にします。
- 4 リモコンの運転スイッチを「入」にします。

お願い

- 取扱説明書に従った凍結予防の処置をせずに機器や配管が破損すると、高額な修理費 (有料) がかかる場合があります。
- 給水・給湯配管が凍結すると配管や給湯栓が破裂することがあります。解凍後は、全ての給湯栓を開けてから水道メーターを見るなどして、水漏れしていないことをご確認ください。
- 機器や配管が破損し、水漏れで壁を汚したり、階下を濡らした場合の修理費用はお客様の負担となります。

長くお使いいただくために

点検のポイント・お手入れのしかた

■点検のポイント（月1回程度）

次の7つのポイントで点検してください。

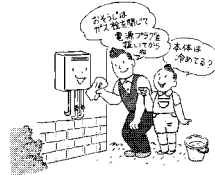
- 1 機器および配管から水漏れはありませんか？
水漏れは、機器の故障だけでなくお隣や階下の方にも多大な迷惑をかけます。
- 2 機器および配管からガスの臭気はしませんか？
- 3 運転中に機器から異常音が聞こえませんか？
- 4 機器の外観に異常は見られませんか？
- 5 機器のまわり、および排気口のそばに燃えやすいものはありますか？
- 6 浴槽に循環口フィルターがついていますか？
- 7 給気口・排気口への積雪や、屋根から落ちた雪により排気口が塞がれていませんか？

給気口・排気口が塞がれていると、機器が不完全燃焼することがあります。
積雪時には給気口・排気口の点検、除雪を行ってください。屋根から落ちた雪が給気口・排気口をふさぐおそれがあるときはお買い上げの販売店または、最寄りのガス会社へご連絡ください。

■お手入れのしかた（月1回程度）

機器本体およびリモコンのお手入れ

- 汚れは、水にぬらしたやわらかい布をかたく絞って、軽くふき取ってください。
- シンナー・ベンジンなどは使わないでください。
変形する場合があります。



■定期点検のおすすめ（有料）

- ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、年一回程度の定期点検をおすすめします。お買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へご相談ください。

警告 ●フロントカバーを外したり、リモコンを分解したりしない。



注意 ●ご注意ください

- 機器本体のお手入れは、ガス栓を閉じ、電源プラグを抜き、機器が冷えてから行ってください。また、怪我などしないよう、指先には十分注意してください。
- 給湯栓の先端に泡沫器が内蔵されているものについては、ときどき内部のフィルター（金網）を掃除してください。
- 台所リモコンには水をかけないようにしてください。リモコンの内部には電気部品が入っていますので故障の原因となります。また、浴室リモコンは防水タイプですが、故意に水をかけないでください。

お願い ●洗剤およびシンナー、ベンジンなどでは拭かないでください。

- 水圧の低い地域では泡沫器は使用しないでください。

安全に長くお使いいただくために、点検とお手入れは定期的に行いましょう。

■循環口フィルターの掃除（こまめに掃除）

浴槽をお掃除するときは循環口フィルターも掃除してください。循環口フィルターには、湯アカや毛、タオルのくずなどが意外と多くたまるものです。循環口フィルターの汚れがひどいと、循環量が弱まったり、追いだきができなくなります。

循環口フィルターの外し方

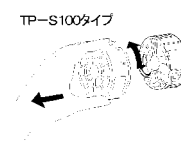
循環口フィルターの外し方は、循環口の種類により異なります。

TP-S150タイプ



循環口フィルターのローレット部をつまみ、左に回して手前に引きます。

TP-S100タイプ



循環口フィルターを左に回して手前に引きます。

循環口フィルターを掃除する

歯ブラシなどで洗います。



掃除後、循環口フィルターを元のように取り付けます。

■給水口フィルターの掃除

給水口フィルターがつまるとお湯の出が悪くなったり、お湯にならない場合があります。そのときは、次の要領で給水口フィルターを掃除してください。（特に、新築や井戸ポンプの場合）



- 1 給水元栓を閉じる。
- 2 給水接続口にある水抜き栓を外す。
- 3 歯ブラシなどで洗う。
- 4 元のように取り付ける。

■点検・お手入れ後の確認

点検・お手入れ後はガス栓を開いて、運転スイッチを「入」にしてから給湯栓を開き、機器が正常に動作していることを確認してください。万一、異常な燃焼・臭気・異常音を感じられたときは、使用を中止し、ガス栓を閉じてお買い上げの販売店または、最寄りのガス会社へご連絡ください。

お願い ●循環口フィルターは必ず取り付けてご使用ください。

循環口フィルターを付けずに運転すると、ポンプ等の故障の原因となります。

- 給水口フィルターを外すと水が出ます。
水が流れては不都合な場所では、あらかじめ容器を用意して水をうけてください。
- 再使用するときは、水抜き栓を元通りに確実に閉じてください。閉じかたが不十分だったり閉じ忘れたりすると、そこから水漏れします。
- 別売のユニットを取付けている場合、ユニットに付属の取扱説明書も合わせてご覧ください。

長くお使いいただくために

故障かな?と思ったら

こんなとき	ここを調べてください
リモコンの画面に 表示が出ない	省電力の待機中ではありませんか (リモコン付属の取扱説明書) 電源プラグがコンセントに差し込まれていますか (→9ページ) 停電していませんか (→5ページ)
アラーム番号「032」「252」「542」 が点滅し、動作しない	給水元栓が全開になっていますか (→9ページ) 断水していませんか おふろの排水栓はしっかりとまっていますか (リモコン付属の取扱説明書)
給湯燃烧表示 [▲] が表示しない (台所リモコンは、給湯燃烧ランプが 点灯しない) お湯が出ない	ガス栓が全開になっていますか (→9ページ) 給水元栓が全開になっていますか (→9ページ) 断水していませんか 給湯栓が十分開いていますか (リモコン付属の取扱説明書) 給水口フィルターがつまっていますか (→14ページ)
高温のお湯が出ない 低温のお湯が出ない	給湯栓が十分開いていますか (リモコン付属の取扱説明書) 温度調節は適切ですか (リモコン付属の取扱説明書) 混合水栓やサーモミキシングバルブを使用し、高温 のお湯が出ない場合は、リモコンの給湯温度を60℃ にセットしてください
ふろ燃烧表示 [▲] が表示しない (台所リモコンは、ふろ燃烧ランプが 点灯しない)	ガス栓が全開になっていますか (→9ページ) 浴槽に水が入っていますか
おふろ使用中に消火した	ガス栓が全開になっていますか (→9ページ) 設定温度が低過ぎませんか (リモコン付属の取扱説明書)
浴槽の水があつい(ぬるい)	ふろ温度のセットは適切ですか (リモコン付属の取扱説明書)
浴槽の水が少ない(多い)	ふろ水位のセットは適切ですか (リモコン付属の取扱説明書)
洗濯機に入る残り湯が極端に 少ない	洗濯機の入水口フィルターの掃除を行ってください
暖房がきかない(ききが悪い)	ガス栓が全開になっていますか (→9ページ) 放熱器の温度設定は適切ですか 床暖房は暖まるまでに時間が掛かる場合があります

それでもわからないときはアフターサービスをお申し付けください。

■こんな時は故障ではありません

現象	点検項目
給湯栓を絞らずに水になった	この機器は通水量が約2.5ℓ/分以下になったときには消火 します。
夏期水温が高いとき 低温のお湯が出ない	夏期など、水温が高いときに低温のお湯を少量得ようとす ると、湯温が高くなります。給湯栓をもっと開いて出湯量 を多くすれば湯温は安定します。
お湯が白く濁って見える	これは水中に溶け込んでいた空気が熱せられ、大気圧まで 急速に減圧されることで細かい泡となって出てくる現象 です。ビール、サイダー等の泡と似た現象であり汚濁とは違 つて、まったく無害なものです。
浴槽、洗面台が青く見える	湯アカが残っていると、水中の微量の銅イオンと化合して青 く変色することがあります。掃除はこまめに行ってください。
寒い日排気口から白い湯気 が出る	外気温が低いときには排気ガスの水蒸気が白い湯気となりま す。故障ではありません。 ※熱効率がいため、白い湯気が出やすくなっています。
冬期など寒いとき追いだきの ポンプが自動的に動く	凍結破損予防のため、ポンプが自動運転を行います。
給湯栓を開いてもすぐに お湯が出てこない	機器から給湯栓までは距離がありますので、お湯が出て くるまでには少し時間がかかります。
出湯停止後しばらくファンの 回転音がある	再使用時の点火をより早くするため、しばらくの間は回転 しています。
自動スイッチを押した後 お湯入れがときどき停止する	浴槽の中に正確にお湯入れをするための動作です。
運転終了後もしばらく ポンプが回る	「ぬるく」「自動」「追いだき」「たし湯」運転終了後、かくはん のためポンプがしばらく回ります。
時計表示が合っていない	30分以上の停電後、再通電すると表示画面がAM1:00になり ます。なお、ふろ水位・温度設定・予約時刻・保温時間等も初 期状態に戻りますので再設定してください。
保温中ときどきポンプが回る	浴槽のお湯の温度を検知するためおよそ15～30分間隔で 回ります。
ときどき水抜き栓から水が出る	水抜き栓がしっかりと閉じていないと水漏れします。 給湯側の水抜き栓は、過圧防止安全装置をかねています。 圧力を逃すために湯(水)が出る場合があります。
給湯栓を開けたとき お湯の量が変わる	湯温を安定させるために自動的に湯量調整しています。 すぐに湯量は安定します。
給湯使用中にお湯の量が 変化する	お湯を使用中、他の場所でお湯を使用したり、「ぬるく」「自 動」「たし湯」運転や「追いだき」運転と「暖房」運転を同時に 使用した場合に一時的に、お湯の量が減る場合があります。
暖房ポンプがときどき 自動的に回る	エア抜きをするためと、ポンプの固着を防止するための 機能ですので故障ではありません。
おふろを使用していないのに浴 槽の循環口よりお湯(水)が出る	浴槽のお湯を排水したあと、ふろ配管内の残り湯を流し出 す機能が働く、循環口からお湯(水)が出ます。
追いだき時間が長くなる	給湯や暖房を同時に使用した場合、追いだきの能力が落ち たり、一時的に待機する場合があります。

以上のことをお調べのうえ、なお異常のあるときは
お買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へご連絡ください。

長くお使いいただくために

故障かな?と思ったら

- 不具合が生じたとき、その原因をアラーム番号でお知らせします。原因に応じて表示部にアラーム番号が表示点滅し、自動的に運転が停止します。
- アラーム番号が表示点滅したとき、お買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へご連絡ください。そのときは、表示されているアラーム番号もお知らせください。

アラーム番号	内容	原因	対応方法	使用状態	アラーム番号	内容	原因	対応方法	使用状態
002	ガス供給なし	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	505	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
011	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	510	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
032	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	513	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
100	自己診断	自己診断	自己診断	自己診断	542	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
111	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	543	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
113	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	562	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
121	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	610	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
123	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	623	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
140	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	650	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
170	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	651	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
173	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	652	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
252	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	700	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
290	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	710	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
311	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	713	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
312	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	740	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
321	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	750	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
323	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	755	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
331	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	760	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
333	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	763	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
343	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	803	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
348	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	910	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
393	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	913	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
422	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する	930	（ガス欠のユニット）	修理を依頼する	修理を依頼する	修理を依頼する
432	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する					
433	給湯機リセット	給湯機リセット	リセット	運転を再開する					

リセット操作 運転スイッチを一度「切」にし、3秒以上経過してから、運転スイッチを「入」にする。（例）標準リモコン

番号によっては、給湯やふろ温度表示部に、補足の番号が出る場合があります。ご連絡のときは、アラーム番号とあわせてお知らせください。補足の番号は給湯機の場合、給湯温度表示部に表示点滅されます。ふろ側の場合、ふろ温度表示部に表示点滅されます。ただし、台所リモコンは簡易表示のため、アラーム番号のみを表示点滅します。別売のユニットが接続されている場合、上記以外のアラームが出る場合があります。そのときは、ユニットに付属の取扱説明書をご覧ください。

※「111」・「121」のアラーム番号が表示されたときは、給湯栓を閉じるにより、アラームが解除される場合があります。

- こんな場合には安全装置が働きます（ ）はアラーム番号
- 寒いとき、機器の電気ヒーターが動き機器内の凍結を防止します。……凍結予防装置
 - バーナーが正常に燃焼しないとき作動し、ガスが自動的に停止します。（121・123）……立消え安全装置
 - 電気回路に漏電が生じた場合に電気を停止します。……漏電安全装置
 - 水がないのに燃焼している場合にガスを止めます。（720）……残火安全装置
 - 機器の温度が異常に上昇した場合にガスを止めます。（140）……過熱防止装置
 - 機器内の水圧が異常に上昇した場合に機器の損傷を防止します。……過圧防止安全装置

●ご注意ください

●“920” “930”は中和器に関するアラームですので“920” “930”が出たら、お買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へご連絡ください。

●“920-01”は中和器交換警告なので中和器の交換をしてください。機器はしばらく使用できますが、リモコンのアラームは点滅したままです。点滅時は、リモコンの給湯温度が表示されませんので、湯温を確かめてから使用してください。

●“930”が表示されると、機器の使用はできません。中和器の交換をしてください。

●アラーム番号“100”のときは燃焼状態を自己診断し、良好な燃焼を維持できない場合にお知らせする警告表示です。“100”の警告表示が点滅しているときの使用はできませんが、機器の燃焼が悪化している状態で使用しつづけると最終的に安全装置が働いて“990”のアラームとなり機器の使用ができなくなりますので、アラーム番号“100”が点滅したときは、修理を依頼してください。

※型式名に-Nがつく機種は燃焼状態の自己診断を行わないため、アラーム番号“100” “393” “903” “990”は出ません。

アフターサービスについて

サービスを依頼されるときは

- 15～17ページの「故障かな?と思ったら」の項を確認してください。それでも直らない場合、あるいはご不明の場合には、ご自分で修理なさらないで、お買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へご連絡してください。
- アフターサービスをお申しつけの際は、次のことをお知らせください。
 - (1) 氏名・住所・電話番号・道順（付近の目印等）
 - (2) 品名（例）GH-S246ZWH（ガスの種類例えば13A）
 - (3) 現象（故障または異常内容、アラーム番号などできるだけ詳しく）
 - (4) 訪問ご希望日

転居または機器を移設される場合

- ガスの種類が、異なる地域へ転居される場合は、調整・改造の必要があります。お買い上げの販売店、または転居先のガス会社へご相談ください。
- 増改築などのため機器を移設される場合、工事には専門の技術が必要となりますので、必ずお買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へご連絡ください。
- 設置場所の選定にあたっては、運転音や振動が大きく伝わらないような場所をお選びください。また、機器本体の排気口からの温風や運転音が隣家の迷惑にならないような場所を選ぶなど、ご配慮ください。
- 転居、移設にともなう調整や工事の費用は、保証期間内でも有料となります。

保証について

- この給湯暖房用熱源機には保証書が付いています。必ず「販売店名・購入日」等の記入をお確かめになり、保証内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証書を紛失されると、保証期間内であっても修理費をいただくことがありますので、大切に保管してください。
- 保証期間経過後の故障修理については、修理により製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の保有期間について

- この製品の補修用性能部品（機能維持のために必要な部品）の保有期間は製造打切り後10年です。ただし、保有期間経過後であっても補修用性能部品の在庫がある場合は有料で修理いたします。

アフターサービス等についてわからないとき

- お買い上げの販売店、または最寄りのガス会社へお問い合わせください。

長期間使用しない場合

- 長時間使用しない場合は次の操作をしてください。
 - (1) ガス栓を閉じます。
 - (2) 給水元栓を閉じます。
 - (3) 機器の水抜きを行います。（水抜き方法は、10・12ページを参照してください）
 - (4) 電源プラグを抜きます。

長くお使いいただくために